

## 小字の解説

小字名	よみ	現在の住所
<b>1 本願明</b>	<b>ほんがめ</b>	大萱 1丁目17〜20、大萱 2丁目8〜9,20、一里山 1丁目14

本願名と書く場合もある。長沢川を水源とする本願明池があったが、昭和50年に埋めたでられ、現在は駐輪場や近畿地方整備局大戸川ダム工事事務所等の敷地として利用されている。

**2 東野** **ひがしの** 大萱 1丁目10〜18、大萱 2丁目21、一里山 1丁目9〜10

東野の半分近くは、萱野神社の森や田畑だった。東野の田地は、山側の溜池を源とする水路の末端にあるため、村の中でも最も水を確保しにくい、耕作に不適な場所だった。150年ほど前は荒地だったが、村で開墾し、当時あった130戸に農地を分配したことを記録した文書が村に残っている。

**3 南野** **みなみの** 大萱 2丁目7,13〜14、一里山 1丁目2〜3

現在の学園通りから平和堂の駐車場の所を通過って、西野と南野の境のところまで通じる水路があった。「よみぞ」と呼んでいた。水路は国道1号をサイフォンで超えた。サイフォンの入りと出の口はくぼんで水が溜まるようになっていた。それを「どんど」と呼んでいた。

**4 西野** **にしの** 大萱 1丁目6〜9、一里山 1丁目1〜2

西野には、大萱の墓地がある。

**5 野海道** **のかいどう** 大萱 1丁目5〜6,9、大萱 2丁目28〜34

現東光寺の敷地周辺は、古くより寺院跡として認識されており、7世紀頃の瓦やカットガラスが出土した東光寺遺跡がある。

**6 正林坊** **しょうりんぼう** 大萱 2丁目22,25〜27

野海道や正林坊のあたりは、東光寺の寺域であった。正林坊の一部には、「東光寺屋敷」と呼ばれる所があった。蓮の花の咲く正林坊池が現在の宮ノ口遊園地の場所にあった。古文書では、「庄林坊」と書かれている場合もある。

**7 宮ノ口** **みやのくち** 大萱 2丁目1,16〜17,23〜24

**8 北出** **きたで** 大萱 2丁目2〜3,13,15、大萱 3丁目3〜4

**9 広畑** **ひろはた** 大萱 2丁目4,10〜12,14,18〜20

**10 椋井** **むくい** 大萱 2丁目4〜7,10、大將軍 3丁目8

椋井川が流れている。天井川であった長沢川の堤防から椋井川にかけての急な斜面は、雑木や竹が生い茂る藪になっており、「むくい山」と呼んでいた。むくい山に行くに狐に騙されると言われていた。古文書には、「六杭」「無苦井」の表記が使われていることもある。

**11 山崎** **やまざき** 大萱 3丁目1〜2

**12 姥田** **おばた** 大萱 3丁目4〜6、大萱 5丁目8

姥田と書いて「おばた」と呼ぶ。姥田川が流れている。古文書では、「おばた」とかな表記されている場合もある。

**13 浜口** **はまぐち** 大萱 3丁目7〜11、大萱 5丁目8〜9

善念寺には、縄文後期に形成された貝塚遺跡がある。この遺跡は、南大萱においてもっとも古いものであり、縄文後期には南大萱で人々が活動していたことを示すものである。

**14 西浦** **にしうら** 大萱 3丁目12〜19

**15 織部** **おりべ** 大萱 3丁目12,17〜20

明治45年に三角緑神獣鏡等が出土した織部高山古墳がある。かつては、瓦屋さんがあって、周辺の土をとって瓦を焼いていた。

**16 草川** **くさがわ** 大萱 4丁目1,3,5〜6,8,10〜12,15〜17

「草川」「広葭」「田葭」「蓮原」「小葭」辺りの、湖岸近くの小字にあった田は、膝や腰のあたりまで水に浸かるような、水量の多い水田だった。

**17 広葭** **ひろよし** 大萱 4丁目13〜14、大萱 5丁目16〜31

広葭周辺の水田地帯には、「代官堀（だいかんぼり）」と呼ばれる水路が張り巡らされていた。代官堀には、田に通う田船が行き交っていた。

**18 田葭** **たよし** 大萱 4丁目7〜9、大萱 5丁目10〜15,32〜36

大萱の浜があった小字である。大萱の浜は、大萱の湖側の入り口であり年貢米を対岸の膳所や大津に出す交通の要衝であった。湖上交通に携わる船や湖岸近くの水田に通うための田船が係留されていた。現在は貴船神社になっている。9月15日に行われる貴船神社の例祭では、櫓や櫓などの田船の船道具を組み合わせた鳥居が祭られる。角川地名大辞典には、田葭には「浮田」という地名があったと記載されている。

**19 蓮原** **はずはら** 大萱 5丁目1〜4

**20 鬼入** **おにで** 大萱 5丁目5〜7

鬼入と書いて、「おにで」と読む場合と「おにいり」と読む場合がある。角川地名大辞典では、「おにいり」とルビが振ってあるが、昔からの住民は「おにで」と呼ぶ人が多い。古文書には、「おにで」とかな表記されている場合がある。

**21 奈良田** **ならた** 大萱 6丁目7〜10

聖武天皇が東大寺の荘園にした場所が南大萱のあたりにある、という言い伝えがある。

**22 南川尻** **みなみかわじり** 大萱 6丁目4〜6

南川尻と北川尻を併せて「かわじり」と呼んでいた。堤防が決壊しやすく、絶えず水害を被るので、水田稲作が難しい場所だった。

**23 小葭** **こよし** 大萱 6丁目4〜5,11〜16

江戸時代に水田開発のために湖岸を埋め立てた場所である。南大萱資料室に保管されている新田開発に関する古文書には、北惣魼・北川尻・南川尻・井関・小葭・蓮原・草川・田葭の湖岸にある小字で田畑の開発を行った記録が残っている。

**24 南川崎** **みなみかわさき** 大萱 6丁目1〜4

長沢川の河口に位置する小字である。長沢川は、「ながそがわ」と呼ばれる。江戸時代、村で流行病が蔓延した際に行われた「病送り」では、病魔は川崎に送られた。

**25 惣魼** **そえり** 大萱 7丁目1〜6,25

「魼」とは、琵琶湖一帯で行われている「魼漁」を行うために設置する小型定置網のことである。川を遡上した魚を狙って仕掛けられたため、河口の両岸の沖合に設置されていた。南大萱では、南川崎沖・小葭沖・広葭沖に3統の魼が設置されていた。

**26 北川尻** **きたかわじり** 大萱 7丁目6〜8,21,23〜24

**27 殿田** **とのだ** 大萱 7丁目13〜20,22

殿田川が流れている。殿田川では「待ち網」という方法の魚つかみをした。「待ち網」とは、大雨時の増水の後に流下する魚を狙った漁法である、河道を塞ぐほど大きな、タモ網のような形の「待ち網」を川に差し入れて魚を捕えた。

**28 井関** **いせき** 大萱 7丁目9〜11

南大萱資料室に保管されている古文書では、「井堰」という表記もされている。

**29 菖蒲** **しょうぶ** 大萱 7丁目12、大將軍 1丁目2〜3

「菖蒲」や「穴田」のあたりは、長沢川と狼川に挟まれたエリアの中で最も低い土地であったため、水が溜まりやすい場所だった。芦浦道と交差するあたりの殿田川には、幅50cmほどの石の橋が架かっていた。橋の下手側には堰があり、干ばつの際に琵琶湖の水を逆水利用するために用いられていた。

**30 穴田** **あなだ** 大將軍 1丁目1,28

**31 針田** **はりた** 大將軍 1丁目4

「針田」「井戸」「小柵木」「七ノ坪」「戌ヶ町」「五ノ坪」「野入」「銚子」「四田原」「四ノ坪」には、8世紀中頃整備された条里田の区割りを維持した、間口10m、奥行100m、広さ一反の一定の形の田が、道と水路に沿って東西方向に並んでいた。

**32 井戸** **いど** 大將軍 1丁目5〜8, 27

南大萱資料室に保管されている古文書では、「い登」という表記もされている。

**33 小柵木** **こひらぎ** 大將軍 1丁目11〜12

**34 七ノ坪** **しちのつぼ** 大將軍 1丁目9〜10,26

**35 戌ヶ町** **いぬがまち** 大將軍 1丁目13

**36 五ノ坪** **ごのつぼ** 大將軍 1丁目15,25

**37 野入** **のいり** 大將軍 1丁目16,24

**38 銚子** **ちようし** 大將軍 1丁目17

南大萱資料室に保管されている古文書では、「丁師」という表記もされている。

**39 四田原** **したわら** 大將軍 1丁目18〜19,23

**40 四ノ坪** **しのつぼ** 大將軍 1丁目20〜22

**41 大將軍** **だんじょう** 大將軍 1丁目14

「大將軍」と書いて、「だんじょう」と呼んでいた。「大將軍」「河原」「北出」「椋井」の境界は藤ヶ森と呼ばれる場所で、藤ヶ森神社があり、長沢川には藤ヶ森橋が架かっている。藤ヶ森神社は、もとは大將軍の田の中にあった祠だった。祠の周りには藤の木が植わっていた。長沢川は天井川であったため、藤ヶ森橋を越えるためには高低差5mほどの坂を昇り降りする必要があった。

**42 河原** **かわら** 大將軍 3丁目1〜7, 18,20〜23

「大將軍」「河原」の辺りは、耕作に適しているうえに在所からも近いので大萱の農地の中でも一等田がある場所だった。古文書には、「川原」「河王ら」と表記されている場合もある。

**43 増井** **ますい** 大將軍 3丁目10〜11、月輪 1丁目1,3

増井川が流れている。増井川の辺りでは、梅雨の頃ゲンジボタルが多く出た。このあたりには、天神様を祭った増井天神がある。

**44 新ノ池** **しんのいけ** 大將軍 3丁目12,16,17、月輪 1丁目2,4、月輪 2丁目1

**45 堂山** **どやま** 大將軍 2丁目1〜2、大將軍 3丁目14〜15,19,24〜25

堂山は地質が粘土質で、粘土を掘って家の壁土にしていた。堂山の辺りに配水する水路がなかったため、野井戸を掘り、井戸水を「かえつぶり（返し釣瓶）」でくみ上げることで田を養っていた。古文書には「土山」の表記も見られる。

**46 湯ノ口** **ゆのくち** 大將軍 2丁目17〜23、大將軍 1丁目20

湯ノ口には、上酢子池（かみすしいけ）がある。上酢子池は、四ノ坪や五ノ坪にあった条里田に水を供給していた。

**47 広野** **ひろの** 大將軍 2丁目27〜35

広野の中央には狼川（おかみがわ）が流れている。広野では、麻や綿などの繊維植物を多く栽培していた。

**48 山田** **やまだ** 大將軍 2丁目13〜15,24〜26

**49 三条ヶ町** **さんじょうがまち** 大將軍 2丁目9〜12,16、月輪 1丁目10〜12

南大萱資料室に保管されている古文書では、「三町ヶ町」「三十ヶ町」「三上ヶ町」という表記もされている。

**50 烏子** **からすご** 月輪 1丁目9,13、月輪 2丁目19〜20

烏子には、烏子池（からすごいけ）があったが現在は埋め立てられている。古文書では、「から春子」という表記も見られる。

**51 野々宮** **ののみや** 月輪 2丁目15,18,21〜23

明治の地租改正で、野々宮から地番がふられたので、野々宮の地所が南大萱の一番地になった。

**52 葛原** **くずはら** 一里山 1丁目15〜25

**53 往還浦** **おうかうら** 一里山 1丁目7〜8、11〜13、一里山 2丁目18

往還とは、街道を指す言葉である。赤兎と古朝倉の境界から往還浦・葛原・月輪を貫いて旧東海道が南大萱を横断しており、旧東海道と現在の学園通りが交差する辺りに一里塚があった。

**54 赤兎** **あかはね** 一里山 1丁目3〜6

資料によって、赤禿、赤穴などいろいろな書き方がなされている。赤兎の辺りは粘土質で赤土が多い地質だった。

**55 古朝倉** **こあさくら** 一里山 2丁目1〜4,14、一里山 4丁目15

**56 茶屋窪** **ちややくぼ** 一里山 4丁目5〜12

隣の大江村には、茶屋窪池（現在の天津市消防局瀬田分団の敷地）があった。茶屋窪は窪地で水が溜まりやすい場所だった。

**57 焼野** **やけの** 一里山 2丁目15〜17,20〜33、一里山 4丁目27〜28

**58 茶屋前** **ちややまえ** 一里山 2丁目19、一里山 3丁目21〜35,39

**59 山ノ神** **やまのかみ** 一里山 3丁目13〜14,17,19〜20,25,29,36〜38

山ノ神には、7世紀頃須恵器を生産していた山ノ神遺跡がある。山ノ神の辺りでは、昭和20年ころまで野井戸の水を耕作に利用していた。野井戸を農業に利用しなくなってからは、井戸の中に「もんどり」を入れてドジョウつかみをした。

**60 月ノ輪** **つきのわ** 一里山 3丁目1〜4,16,18

月輪池の名の由来について、月の輪が池に入ったことにちなむという言い伝えや、平安後期頃の公卿、九条兼実（月輪禪閣兼實）の荘園であったことによる、という説がある。

**61 四反田** **したんだ** 一里山 3丁目5〜12,15,18、一里山 5丁目21、月輪 3丁目19

**62 新朝倉** **しんあさくら** 一里山 4丁目16〜29、一里山 5丁目1,10〜14

新朝倉の辺りには、梨畑があった。

**63 一ツ松** **ひとつまつ** 一里山 2丁目13、一里山 4丁目1〜8,10〜14

**64 長尾** **ながお** 一里山 3丁目40、一里山 4丁目28〜29、一里山 5丁目1〜7,15〜16、一里山 6丁目5,7〜8,10

長尾の上手にある小字、石拾には、下長尾池・上長尾池の二つの溜池がある。下長尾池の横には地蔵の祠があり、8月23日に雨ごいの儀式を行う。

**65 丸尾** **まるお** 一里山 3丁目40、一里山 5丁目17〜22,35、月輪 5丁目1〜5

丸尾の上手にある小字、石拾には、下丸尾池と中丸尾池がある。上手にある上丸尾池は月輪村の池である。月輪村の人たちは、上丸尾池のことを丸防池（まるほいけ）と呼ぶ（月輪粟林史）。中丸尾池は、現在埋め立てられて瀬田南大萱霊園になっており、下丸尾池は霊園の放生池に姿を変えている。

**66 新林** **しんばやし** 一里山 5丁目20、一里山 6丁目9,11〜14,17

**67 石拾** **いしひろ** 一里山 6丁目9、瀬田南大萱町1732,1740

石拾には、南大萱で最も大きく最も新しい溜池である石拾大池がある。村の人たちが大池（おいけ）と呼んでいた石拾大池は、享保21（1736）年に築池された。石拾大池は、上手に水量調整のための空池（からいけ）、沈砂を担う砂溜まり（池）を構えた池であった。古文書では「石飛路以」と表記されている場合もある。

**68 石拾ノ内** **いしひろのうち** 一里山 4丁目9、一里山 5丁目1〜9、一里山 6丁目1〜4,6、一里山 7丁目1〜11,17、瀬田大江町、瀬田南大萱町

**69 熊ヶ谷** **くまがだに** 瀬田南大萱町、上田上堂町、上田上芝原町

安永7（1778）年明細帳（南大萱資料室保管）によると、熊ヶ谷は大萱村と隣村の大江村が共同で利用する立会山（入会山）であった。熊ヶ谷周辺の山には、マツが多く生えていた。家の燃料とするために、雑木を芝刈りし松の落ち葉を木の葉かきした。また、マツタケやイグチなどのキノコ類も良く採れた。

「明治期南大萱村小字境界図」は、「近江国栗田郡第八区南大萱村全絵図」（明治十一年作成、南大萱資料室保管）、「近江国栗田郡南大萱村地籍」（明治十一年作成、南大萱資料室保管）、「南大萱字限之圖」（昭和四十一年作成、瀬田北学区自治連合会保管）の資料と、南大萱に古くから在住している住民からの聞き取りを基に、現在の地図の上に小字の境界を再現した字限図である。南大萱村には明治十一年の時点で69の小字があったが、明治期以前の南大萱の土地所有や土地開発に関して記載された古文書には、69の小字以外の地名が散見する。一説には、南大萱には125の小字が存在したともいう。例えば、安永七（1778）年大萱村明細帳には、上述の69の小字以外に以下の字名が記載されている：竹ヶ尻・濱田・津武・濱・笹樽・構之内・下菖蒲・上菖蒲・鍬物町・尾崎・小平木・六ノ坪・高渡・下明・上明・長沢・太上天・八重ヶ町・講座・長土・下志田原・畑ノ下・上志田原・加地利・人苦和・小幡・大町・志那塚・狭間田・無苦井・茶屋窪・屋家野・三上ヶ町・丈ヶ池・壱ツ松。このうち、下菖蒲と上菖蒲・小平木・下志田原と上志田原・小幡・無苦井・屋家野・三上ヶ町はそれぞれ、菖蒲・小柵木・四田原・姥田・椋井・焼野・三条ヶ町に相当すると思われることから、現在地を推定することができるが、いくつかの字については現在地についての知識がすでに失われてしまっている。ここに、南大萱に保管されている古文書に記載されている上記以外の地名の一部を列記する：奥井戸・宮田・鯁腰・だんぎゃ・野口・上増井・孫出山・積かの・酢子池（須師池）・前田・下長沢・上長沢・宮前・砂川・十禅寺・針ノ木町・うき田・内はた・高砂・尾崎・天神山・清水・狼川床・茶屋ノ後・池之上・す川・ひらき・江口・塚縁・宮ノ後・塚腰・品塚・大池ノ端・狼谷・長尾狼谷・高座・朝倉山野・朝倉・孫出・弥楚・弥楚谷・北弥楚・一里山・一里塚・どんど・竹原・海道浦・淵尻（緑尻、濁尻）・老松・北葭・南葭・中葭・往還下・大道・寺林中・朝倉山野。その他、古文書には解読できない地名が多く残っている。

- 一参考文献ー
- 『新註近江輿地志略』（1976）寒川辰清編・小島捨市註・宇野健一新註、弘文堂書店
- 『角川日本地名大辞典 25』（1979）『角川日本地名大辞典』編纂委員会編、角川書店
- 『月輪粟林史』（1981）月輪粟林史編纂委員会編、月輪・粟林町
- 『新修大津市史 第9巻 南部地域』（1986）林屋辰三郎ほか編、大津市役所
- 『昔を今、語りつくわがまち瀬田東』（1998）瀬田東学区郷土誌会編集委員会編、瀬田東学区郷土誌会
- 『南大萱史』（2004）南大萱史編さん委員会編、南大萱史編さん委員会